



広島国際学院
創立77年



平成十六年度から

大学は大きく変わる！

特集 — 特許取得の先端技術……………	2・3
主任教授就任にあたって……………	4
はじめまして — 新任教職員紹介……………	5
力強く歩み進める	工学部 …… 6
大学に新風	情報学部 …… 7
咲きそろふ笑顔	現代社会学部 …… 8
学生の視点で	短期大学部 …… 9
高校から発信	高等学校 …… 10
学生時代の思い出と社会人になって思うこと……………	11
あふれる元気 輝く笑顔……………	12
校友会長から発信……………	13
私の大学生活……………	13
研究室紹介……………	14・15
教育支援プログラム……………	16

広 報

第 58 号

平成16年 7月 1日発行

ハイテク・リサーチ・センターの成果・本学名称初の特許出願

ハイテク・リサーチ・センターは、平成10年（1998年）4月に発足し、プロジェクト「超高純度金属の開発と応用」のもとに、基礎研究を進展させて、開発・応用研究を行った。今までに積み上げてきた実績の上において現在も活発に研究活動を続けている。最近、特に大学や研究機関に知的所有権の取得が要請されている。プロジェクトの研究成果の一つとして特許申請を行った。

申請を行った発明の名称は「金属単結晶製造方法および装置」である。この発明は、金属や合金の単結晶材料を製造する方法に関するもので、金属の超高真空中で溶解による超高純度精製の研究を行っている時に得られたものである。

純粋な大型単結晶が簡単・安価・短時間に

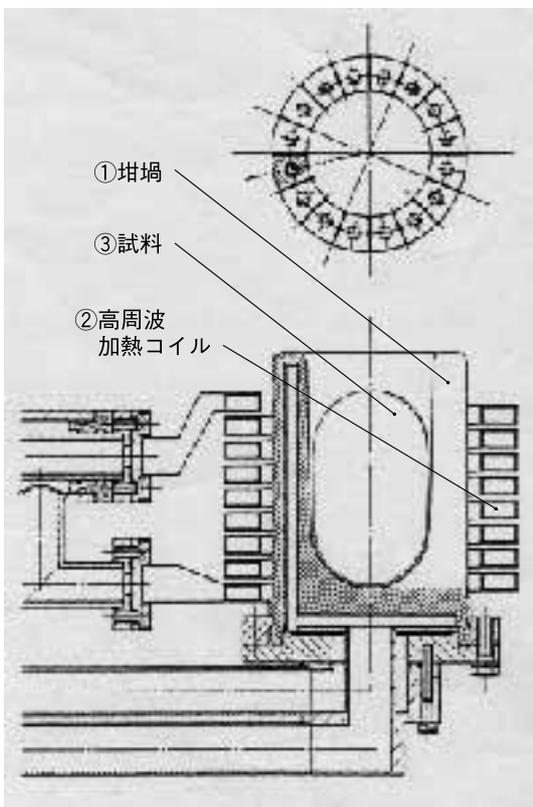


図 1 金属単結晶製造装置の構成

この特徴を活かして、本センターが設計した坩堝で溶解することにより、熔融金属試料に坩堝の成分が不純物として溶け込むのを防ぐことができ、熔融金属原料を単結晶として凝固させることにより、育成された単結晶にひずみが入るのを防ぐことができる。坩堝底の形状は、坩堝内で凝固した金属の三日月の形状（U字型、図1参照）とほぼ一致するような形を作ることにより、凝固金属の一部を種結晶として用い、再溶解／再凝固の過程を経て、容易に単結晶を育成することができる。

従来この種の単結晶育成法としては、「チョクラルスキー法」や「ブリッジマン法」などが知られていた。

この発明の特徴は、坩堝に起因する不純物の混入やひずみの発生がなく、機械的動作もなく、装置が簡単でしたがって安価である。非熟練者でも作業が可能で、かつ、大型の結晶を短時間で製造できることである。

この発明の構成を図1に示す。図中の①は坩堝②は高周波加熱コイル③は試料である。

この発明においては、加熱装置として誘導加熱法を用い、試料の溶解は「コールドクルーシブル法」を用いる。コールドクルーシブル法の坩堝は金属（たとえば銅）製で、内部に水冷機構を備え、誘導加熱装置により坩堝に誘導電流が生じ、渦電流が発生する。この渦電流により、坩堝内の金属材料が誘導加熱される。坩堝自体は水冷されており、また電気抵抗が低く熱伝導の良い金属製なので、温度が上がることはない。また、坩堝と熔融金属原料とのあいだに、磁気的な斥力が働き、熔融金属試料は坩堝と接触しない状態となるのがコールドクルーシブル法の特徴である。

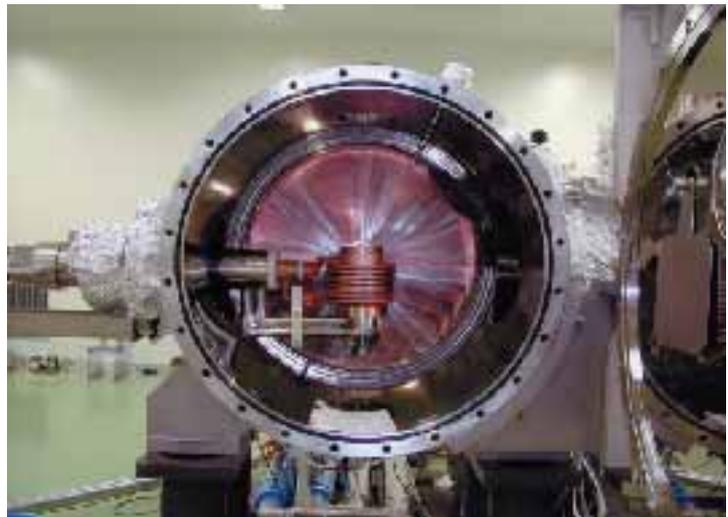


写真1
超高真空溶解装置 中心部に高周波加熱用コイル 内側に坩堝

各方面から注目「大型単結晶製造技術」

溶解は超高真空中であり、溶解時の真空度は 10^{-8} Pa台でアルミニウムにおいて、初めて実現した真空度である。通常は真空中で溶解すればアルミニウムが蒸発してしまうのではないかとされている。実際アルミニウムで蒸着した鏡があるのではないかと。しかし純度が良くなるにつれて蒸発は少なくなり、純度99.999%以上では蒸発は非常に少ない。金でも同様である。溶解用チャンバーの窓より、試料の溶解の様子がよく見える。

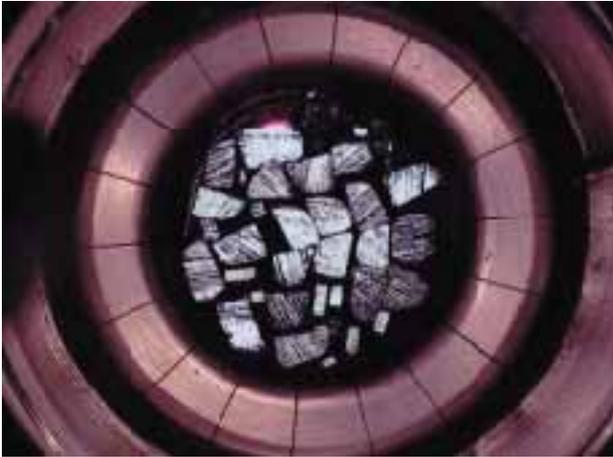


写真2 溶解前アルミニウムの試料を坩堝に取り付け

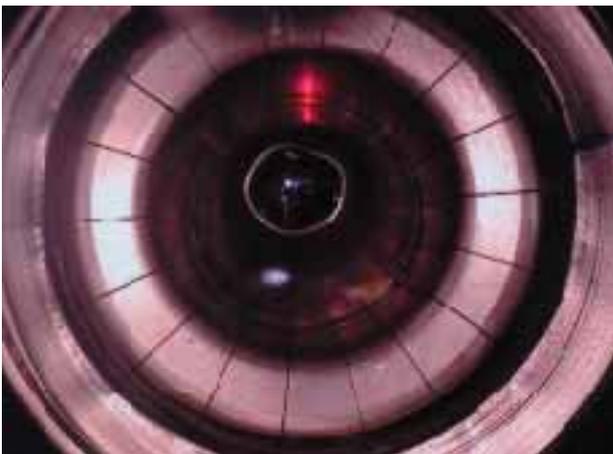
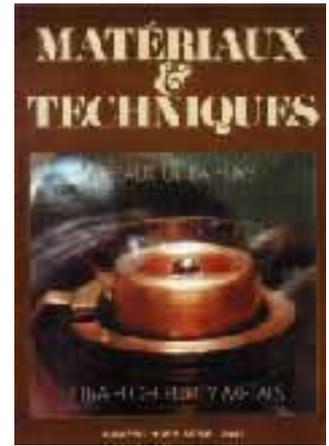


写真3 溶解中のアルミニウム(中心部) 上部フランジ窓より



写真4 横フランジ窓より、中心の黒光りしているのがアルミニウム試料。溶解中は酸化皮膜も無く、鏡面ようになっている。周囲が暗いので黒光りしているように見える。



専門雑誌 表紙

純度が悪くなると(99.99%以下)、試料の蒸発により曇ってくる。今までの常識とは異なる事実をこれら一連の実験により見いだした。しかし特許申請では単結晶の作成はガス雰囲気中でも可能であることを特許範囲で確保している。2003年超高純度金属の国際会議がフランスはSaint-Etienneで開催され、我々のアルミニウム溶解時の写真がその報告の専門雑誌の表紙を飾った(右上)。

本研究で開発した種々の物質を簡便に大型単結晶化する方法を、本学と地元企業の「(株)日本製鋼所」、「(株)ジェイ・テック(日本製鋼所グループ)」との共同で特許出願を行った。これは産学共同研究の成果であり、また、わが大学名称での特許権の取得は初めてとなる。

超高純度化した金属に関するこのプロジェクト研究に対しては、各方面からの問い合わせがある。例えば、超高純度金属の精製技術や分析用の標準物質の提供などが寄せられた。現在も企業との連携を強めており、各種金属の超高純度化を進めている。また、良質な試料作製およびその物性の研究も推進している。

本発明の申請時(平成15年2月)での本学関係者は大園洋仁、藤井和行、前田裕司である。

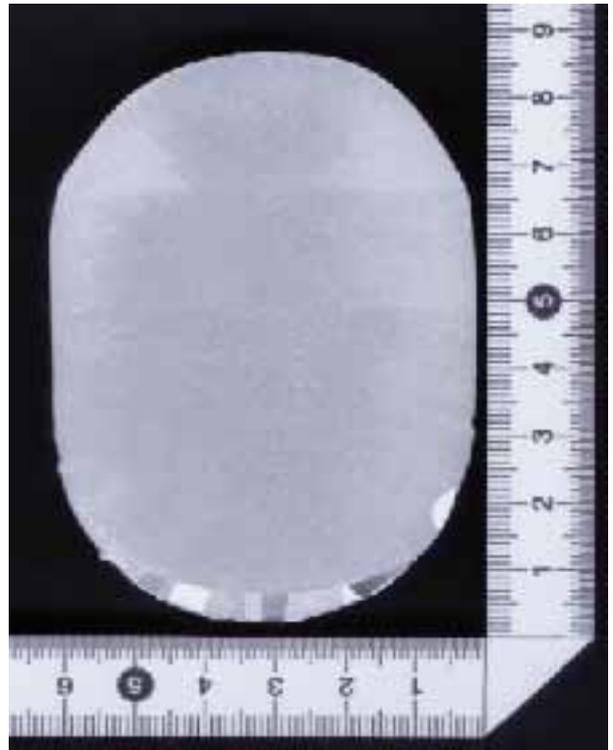


写真5 作成した大型アルミニウム単結晶(切断面)

工学部 バイオ・リサイクル学科
えん どう とし ろう
遠 藤 敏 郎



スタッフ全員にご支援を

「バイオ・リサイクル学科」を新設いたしました。多くの大学にリサイクル工学という科目はあっても「リサイクル」を冠する学科は初めてだろうと思います。学内外のご議論も受け関心も高いだけに責任を感じております。

長い不況の中で、国も産業界も新しい視点からの日本の技術を模索し続けてまいりました。日本の「ものづくり」を中心とする伝統技術・技能の再認識・再開拓が進められていることはご存知の通りです。学問的知識もさることながら、日本の技術・技能を担える技術者の育成も技術系大学の重要な使命と感じております。本学科の教育・研究は正にここに主眼を合わせております。実践を主体とした技術・技能教育、体験学習、グループ学習等の指導を通しての「信和・協同・実践」教育を具現化したいと考えております。試行錯誤しながらも先ず動くことの中から知恵を蓄積したいと考えております。他学科の皆様にはよろしくご指導ご支援いただきたく思います。

情報学部 情報デザイン学科
たか くわ よし あき
高 桑 誠 明



面白いことが出来る学科へ

情報デザイン学科の主任教授を命ぜられまして抱負を新たにしています。また、新設学科として、魅力ある学科造りに寄与する重責も感じております。さて、情報学部・情報デザイン学科は、従来の本学工学部の学科とは異なり、数学や物理が不得意な学生も教育対象としています。教育課程にはグラフィックデザインなどの内容も取り入れ、美的センスに加えて面白さや楽しさなどの感性を育成することも大切な要素としています。特に、理工系にこだわらない多数の学生を受け入れ、魅力ある教育を実現させて行くためには、理数系を教育の基礎と考えがちな従来の価値観の幅を広げて、意識的な学科造りの努力が必要であると思われまます。授業内容はもとより、教員と学生の関係においても、面白いこと、楽しいことが土台となると考えます。皆様のご支援とご協力により、面白いことが出来る、魅力ある学科造りを第一目標として学科主任をつとめさせて頂きたく、よろしくお願いたします。

主任教授就任にあたって

工学部 電気電子工学科 こう の けん じ
河 野 健 次

工学部の改組により、電気工学科とメディア情報通信学科を合併し、新生電気電子工学科が誕生しました。それに伴い新学科の主任教授に任命されました。大学運営は少子化で、厳しい状況に立たされておりますが、新入学生を迎え、新しく編成されたスタッフで、先端技術を支えるエネルギー、エレクトロニクス、情報通信の徹底した基礎教育及び研究活動に全精力を注いで乗り切る覚悟です。皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



工学部 機械工学科 すもも ぎ つね たか
李 木 経 孝



引続き、機械工学科の主任を仰せつかりました。工学部が改組された大事な時期に学科の運営を託された責任の重さは計り知れないものがあります。幸いにも機械工学科には有能な先生方が多く、私としては、この先生方が教育と研究の両面で活躍できるように、また、魅力ある学科として特色が創り出せるよう、世話役に徹したいと考えております。今後とも、優秀な学生の養成を目指して学科の先生方と共に努力するつもりですので、よろしくお願いたします。

情報学部 情報工学科 あお い ひで き
青 井 秀 樹

情報工学科では「大学に入って来た学生には、個々に応じた付加価値をつけて卒業させる」ということを基本方針にします。今迄もこの方針でやってきたのですが、情報学部になったこの機会に更に充実したいと思ひます。そのためには、コンピュータを自由自在に使えるようにする授業、実用的な内容の授業、実験を通して本質を理解させる授業、少人数によるゼミ形式の授業などを更に改善する必要があります。このようにして「社会に出て役に立つ学生」を育てます。



立町キャンパス講演会

「どうなる？エレクトロニクスライフ」

薄型大画面テレビ、DVDレコーダー、デジタルカメラは、「新三種の神器」と言われ景気の牽引役となっている。またモバイルの必需品である電池もずいぶん種類が増えている。これらデジタル家電についての様々な疑問に答え、今後の電化生活の変化について将来像を一緒に考える講演会が2月6～27日、立町キャンパスで行われた。「どうなる？エレクトロニクス

ライフ」と題し、工学部の教員が担当した。

荒川延浩教授の「どうなる？地上波デジタル放送」では、地上波デジタル放送に変更するメリット、我が家のテレビやアンテナは今後も使えるのか、薄型大画面テレビはいつ買えば良いかなど。田中誠助教授の「どうなる？デジタルカメラ」では、デジタルカメラのメリット、画素数はどれくらいが適当か、これからどう発展していくのかについて。



佐伯哲二助教授の「どうなる？電池」では、電池を長持ちさせる秘訣、アルカリとニッケル水素はどっちが得か、燃料電池とは何かなどについて。

江端克彦教授の「どうなる？CD・DVD」では、CD・DVDの規格、DVDレコーダーは今買って大丈夫なのか、地上波デジタル放送には使えるかなどについて。それぞれ丁寧に解説を行い、回を重ねるごとに大好評だった。

学内企業を立ち上げた！

——インキュベーション施設の設置にあたって——

「学生の起業を目指すグループがWebページの開発を中心にベンチャー企業を起こすにはどうすればよいか」という相談を受けました。

実際に起業した後であれば、学外の企業を紹介して仕事の依頼が受けられるように支援するだけでよいのかもしれません。しかし、これから起業をしようとする学生をどのように支援すればよいのか、大学の役割として新たに求められている「知的財産の地域への提供」という課題についてどのように手がけるべきなのか、問題提起されたような気がしました。

国立大学を除き近隣には、ベンチャー企業を育成する設備を持ち、さらに実際の支援に対するノウハウや実績を併せ持つ大学がまだ無く、これからというところが数校存在するのが現状です。本学は工学部と情報学部を持ち、その研究内容から見ると現場への適用が可能な実践的な技術やノウハウを多く有していることから、技術面での支援体制が作りやすい状況にあると思います。さらに、大学のシーズの提供にあたって社会のニーズを調査し、提供結果について分析を行い、次の機会にフィードバックするなど、現代社会学部との連携を図ることも



考えられます。単科系の大学では実現が難しい環境を作り出すことが本学では可能なのです。このような恵まれた環境を有効活用するためにも、近隣大学に先駆けてベンチャー起業の育成・支援体制の充実を図るべきだと考えました。

これまで地域共同教育研究センターが地場産業からの相談窓口となり、地域との係わりを深める上で実績を挙げています。そこで支援施設は地域共同教育研究センター内に設置すべく起案を提出しました。地場産業との連携を図りながら、地域の発展に貢献し、地域に必要不可欠な大学として認識が深められるよう望んでのことです。

これから様々な面で設備の充実を図って行く必要がある中、すでに1つの学生グループが活動を始めています。その名を「Kaleidos-coop」といいますが、万華鏡(Kaleidoscope)をもじったものです。そんな彼等の活動を、<http://www.g.hkg.ac.jp/bio-recycle/gakusei/kaleidos-coop/index.html>をご覧ください。本学の立町キャンパスを利用して地域青少年への情報技術教育も模索しております。まだ始まったばかりの試みであり、そこで活動する学生グループも様々な面で試行錯誤しながら先に進んで行くことと思います。学内ならびに同窓生、関連企業の方々の暖かいご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

情報学部

大学に新風

情報工学科のすすむ道

情報工学科では教育の質の向上、資格の取得、就職率のよさを目指しています。



情報ゼミ

◆少人数クラスで学生の実力アップ!!◆

チューター全員で分担して教える情報ゼミは、1クラス7人前後ですので、目が行き届きます。学生が調べた結果をレポートにまとめて発表させたり、パソコンを使ってプレゼンテーションさせたりして実力をつけさせます。同時に人前で話すことが出来るようにします。写真は四苦八苦しながらも他の学生に説明している様子です。



情報ゼミ

◆役立つ資格ーシスコネットワークングアカデミー(CCNA)ー◆

ネットワーク機器で世界のシェアを誇るシスコ社の資格CCNAを取得させています。授業資格を持った2人の教員により、2年生から3年生迄の2年間、毎週4時間みっちり教えます。広島地区では当大学を含め3大学でしか資格が取れません。この資格があれば就職は完璧です。写真はこのたび合格した7人の喜びの表情です。なお情報デザイン学科の学生もこの授業を受けることができます。



CCNA合格実績 (3月時点)	受験者数	合格者数
平成14年度	19人	16人
平成15年度	16人	7人



CCNA合格者

情報デザイン学科の魅力

【情報デザイン学科の目標は！】

情報デザイン学科は、卒業生が企業や自治体などで、◆Webコンテンツのデザイン、企画などに関する職業◆コンピュータ・ネットワークシステムのデザインや管理に関する職業◆e-Businessの企画やデザイン、管理に関する職業など、理数系以外の分野でも活躍できる人材を育成する目標をもっています。学科の魅力はこの多彩さにあります。

【面白いこと何でも企画・運営屋に！】

カリキュラムは、一方ではネットワーク技術、セキュリティ技術、情報システム管理など、スーパーバイザ育成の内容が含まれています。他方、グラフィックデザイン、色彩、CG、アニメ、サウンドなど、個性や感性の「ブラッシュアップ」に関する内容も多数含まれています。

特に感性の育成に関しては、学生自身が良いデザインに触れ、面白く楽しいことを企画し、運営することが役に立つと考えられます。学科としても応援します。



「サロンコンサート」での音録り
(CD作成年)

【地域文化活動への寄与なども！】

映像文化面ではこれまで5回の「シネマトーク」を開催しました。評論家をお招きし、映像技術の進歩にも触れて頂いております。また、音楽文化面では市民の演奏による「サロンコンサート」の開催を支援しています。過去10回の一部を主催し、希望により、演奏された曲を本格的に録音・編集して記念CDを作成しております。音響技術の提供で市民活動をサポートしています。

今後、Web作成支援なども含め、学生と教員が一体となって、実際に市民や社会と関わりをもち、親しまれる学科づくりを目指します。このこと自体が学科の大きな魅力になるものと考えます。



「シネマトーク」の一場面
(立町キャンパス)

咲きそろふ笑顔

— 新入生とともに! —

現代
社会学部



エントランスにて

て、総当たり戦で行った。1年生のゼミ担当の武良、谷口、柿本各先生が率いる1年生チームに、上級生チーム、そして教員チームである。

新入生、そして上級生同士も、互いに面識がなく、最初はみな戸惑っているように見えたが、



◀ 食堂にて

●新入生歓迎オリエンテーション●

4月6日に新入生歓迎オリエンテーションがあり、80名近くの学生が参加した。1年生はもちろん、かなりの数の2・3年生の参加を得て、とても賑やかなものとなった。

内容はソフトボール大会、その後に歓迎会という流れだった。まずソフトボール大会は5チームに分かれ



ソフトボール大会

ゲームが進行していくにつれてお互いの親睦も深められた様子。とくに3年生のハイテンションぶりが、全体の盛り上がりにも貢献したようだ。結果は谷口先生のチームが見事優勝、柿本先生のチームが準優勝だった。歓迎会では新学部長から優勝カップが授与された。

武良先生に推されて実行委員長を引き受けたが、当日は晴天にも恵まれ、一人の怪我人も出さず無事終わられてホッとしている。

(現代社会学部3年 黒口 勇次)

和やかな会話に時忘れ...

留学生との交流会

5月に入り現代社会学部では、留学生と教職員および学生との交流会が行われた。話題は留学生の出身地に関する話を皮切りに、広島での学生生活について、また講義ノートの取り方やレポートの書き方にまで及んだ。参加者相互に話題提供あり、質問あり、アドバイスありの多彩な会話が和やかな雰囲気の中に弾み、所定の一時間半が短く感じられた。広島に来て日の浅い留学生にさっそく観光案内を買って出る学生もあり、当日の交流は留学生にとって、学生生活の良いスタートに役立ったようだ。



留学生交流会

後援会総会を開催

4月17日(土)10時より、短大教室にて約40名の保護者の参加を得て、後援会総会が開催された。

立島副会長、学長、理事長からの挨拶の後、平成15年度の会計報告、平成16年度の予算並びに役員改選案について全員一致で承認された。続いて、短大部長より本学部の現状及び取り組みについての説明があった。中でも、退学や休学を防ぐためには、まず、授業に出ることが肝要であり、そのために学校側と家庭との連携を強化したいとの説明には、熱心に聞き入っていた。

その後、各チューターと、学生の授業への出席状況、受講態度、進路等について個別の懇談があり、設備・施設の見学を最後に散会した。

新任会長及び副会長は次のとおり。

職名	氏名
会長	立島 友徳
副会長	西山勢津子



下宿生交流会

バイクの音にも耳すませ…大家さんの親心

新入下宿生交流会を開催

5月15日、下宿生交流会が短大食堂で開かれた。下宿生20余名に加え大家さん2名、学生生活指導の教員、学事課員など約30名が参加した。

今回初めて、長年親身に学生の世話をしてくださっている大家さんの同席を得たが、畑仕事をしながらでも通学する下宿生の様子を観察し、体調の変化を敏感

に捕らえ声をかけたり、夜もバイクの音を聞き分け、誰君がアルバイトから帰宅したかなど、四六時中親同様に気遣っていただいていることを改めて知った。また、故郷のご両親は健康が一番気がかりなのだから早めに相談すること、盗難など起こらないように自己管理すること、金銭の貸し借りをしないこと、強引なセールスにははっきりと断ることなどのアドバイスがあった。先輩の下宿生の中に短大の教員になっている人がいるとか、下宿生が自分の子供の面倒を見てくれてうれしいといった微笑ましいエピソードも披露された。

後半は名札を見せ合いながら出身地・出身校や郷土自慢、趣味、好きな車などの自己紹介をした。大きな関心事はやはり毎日の食事で、自炊している学生からの「料理のレシピが母親から十分伝えられていなくて献立に困っている」「米は炊くがおかずは出来合いを買う」といった打ち明け話には生活が滲み出ている。学生たちは教員の思いがけない趣味に驚き、親しみを感じたようだ。自分の生活を豊かにするために友達を大切にすること、ご両親には時々元気な声を聞かせるようになどの話に聞き入っていた。

遠く故郷を後にして……………

鹿児島からの新入生語る

1年 東 洋光 ひがし ひろみつ



僕は車に興味があり将来もその関係の仕事に就きたいと思い、進路指導の先生からもらった進路の本でこの自短を知りました。2年で2級自動車整備士の資格を取ることができて、努力次第で1級整備士の資格を取ることができる専攻科もあることが、本学を選んだ理由です。

入学前は慣れない土地での独り暮らしの生活ができるのか、学んだことのない学科の勉強に果たしてついて行けるのかなど心配な点もたくさんありました。特に料理はあまりしたことがなかったので、入学したばかりの頃は甘すぎたり辛すぎたり焦がしたりと毎回違う味のものができましたが、この機会にいろいろな料理に挑戦したいと思います。

授業の方も分からないことばかりでした。製図は初体験で、期限までに作品を提出するために放課後も遅くまで残って作品を仕上げたりで、慣れるにはもう少し時間が必要です。実習はいろいろな部品を測定しますが、見たこともない器具を使い測定したり、エンジンの部品と部品の隙間調整に悪戦苦闘しながら取組んでいます。レポートを仕上げるにも結果を書くだけでなく座学の教科書を広げて実習で学んだことよりも詳しい事を調べたりもしました。苦しいことがまだまだあると思いますが、自分の目標である2級自動車整備士の資格を取るためにこれからも頑張りたいと思います。

吹奏楽部 広島駅地下広場でコンサート！

★要請に応え、2回公演で大熱演★

去る4月29日（祝）、本校吹奏楽部は、広島駅南口開発（株）の要請に応じて広島駅南口地下広場でのコンサートを開催した。今回も好評を受けて2回公演となる。



駅前コンサート

や歌で出演することになった。

コンサートは、組曲『惑星』より「木星」のおなじみのクラシックから始まり、「ディズニー・ファンティリュージョン」、世界の童謡民謡メドレー「お江戸ロンドン橋」やシャンソン・メドレーで世界一周の旅へ。続いて1年生全員も参加し、手話と大合唱での「翼をください」。最後は、手拍子にのっての軽快な「テキーラ」。ソロ演奏、踊りや独唱ありの楽しい音楽に観客は大喜びであった。

鳴り止まぬ拍手に応え「世界に一つだけの花」をアンコールに演奏し、大喝采のうちに楽しいステージが終了した。

当日、南口地下広場は大勢の人々で溢れ、吹奏楽部の熱演に酔いしれていた。吹奏楽部は、部員数114名の大所帯である。今回は2・3年生を中心に構成演奏され、1年生は踊り

期待に胸弾ませる530名！

＝第58回入学式盛大に挙行される＝

正門横の老木の桜の大樹が見事に咲き誇る4月8日（木）、第58回入学式が盛大に挙行された。新入生530名は新しい制服に身を包み、校庭の花々に迎えられ緊張した面持ちで入学式会場に入っていった。入学式は、多数のご来賓の臨席のもと入学許可、式辞、新入生代表の力強い宣誓と厳粛のうちに盛大にとりおこなわれた。式終了後、担任の紹介やオーストラリアの姉妹校からの留学生の紹介が行われた。また、恒例になっている吹奏楽部の歓迎演奏が行われ、緊張した式場も和やかな雰囲気になっていった。その後、新入生はそれぞれの教室に入り、新しい高校生活が始まった。



入学式



「朝の読書」始まる！

今年度から「朝の読書」が始まった。読書時間をどのように確保するかが懸案ではあったが、授業時間を確保するという観点から始業時刻を10分早めて実施することになった。「朝の読書」は、全国的にも多くの学校で実施され成果をあげている。本校も、読書によって「自ら学ぶ力」「人間性豊かな心」を育てることを目的に実施している。始まって3ヵ月が経過したが、8時35分からの10分間は学校全体が静寂に包まれた中で読書が行われている。こんなに静寂な一時が過去にあったらどうか。短い時間ではあるが、沈黙して自分に向き合うことにより集中力を身につけることができ、本を通して思考力を飛躍させ、更には遅刻防止やその他にも付随的な効果が出てきている。



朝の読書

オーストラリアの姉妹校から

本校へ長期留学のため来校

今年度も姉妹校から長期留学生在が来校し、普通科2年生のクラスに入って来年1月までの予定で勉強している。来日して3ヶ月が経過したが、日本語もかなり上達し生徒たちと交流を深めている。入学式の時には日本語で次のようなスピーチをした。

「皆さん、初めまして。シャノン・トンプソン、18才です。オーストラリアのジロングから来ました。メルボルンから45分ぐらいのところにあります。1月にグローブデイル高校を卒業し、今年広島国際学院高校に通うことになりました。私は、日本語の先生になりたいので日本に来ました。広島歴史も勉強したいです。日本の学生生活を体験し、たくさん友達をつくりたいです。好きな教科は日本語とグラフィック・デザインです。趣味は映画鑑賞と料理です。来年、オーストラリアの大学へ行きます。大学では日本語と社会学を勉強するつもりです。どうぞよろしくお願いします」



留学生シャノン・トンプソンさん

マレーシアで異文化体験 —— 小さなふれあい積み上げて

工学研究科 機械工学専攻 平成11年3月卒業

かわ かみ とも ひろ
川 上 智 弘



ローム・ワコー(株)という会社に私は就職しました。LED(発光ダイオード)やダイオードなど様々な半導体の製造を行っています。

LEDの製造ラインの保全が私の仕事です。入社2年目よりマレーシアに出向しました。マレーシアでは、機械の保全に加え、ローカルスタッフの教育を主に行いました。現地のスタッフと英語、日本語、マレー語を織り交ぜながらコミュニケーションを取り、海外工場の保全者のスキルアップと生産の安定供給のため努力しました。言葉も文化も違う環境の中で仕事を行うことは、非常に大変でしたが良い経験だったと思います。



真の意味での国際交流は、こうした人と人の小さなふれあいを積み上げることだと、強く感じました。人はどんな環境でも、毎日を一生懸命前向きに生きることが、喜びと楽しさに繋がると思います。特に学生の時に何かを掴み、成し遂げたと自信を持って言えるように頑張ってください。

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

友人は仕事や家庭…人生すべてに効く

工学研究科 機械工学専攻 平成11年3月卒業

まる やま まさ ひろ
丸 山 雅 弘



学生時代の思い出と言われて数ある中で真っ先に思い浮かぶことは、様々な人との交流を楽しんだこと、言い方を変えれば、勉強もろくにせず悪友たちと遊んでいたことです。その友人も現在では、それぞれの地で仕事を頑張っており、時々、学生時代を過ごした思い出の地、広島に集まり当時の話を酒の肴に時間を忘れて飲みます。そして、お互いの仕事のことや家庭、趣味等の話をしてストレス発散しています。

私はグローリー工業(株)に入社して5年になります。現在は、遊技機器システム統括部設計部に所属しパチンコ店、ゲームセンター等に設置する両替機のメカ設計を担当しています。一機種を作り上げるには自分一人ではもちろんできません。エレキ・ソフト担当者他たくさんの部門・人が関係しています。いろいろな人たちとコミュニケーションを取り業務を進めていかなければなりません。時には意志疎通がうまくいかず言い争いになりそうなことも…。そんなときに学生時代のやり取りが役に立ってきます。また、仕事がいかにうまくいなくて困ったときも、友人に相談して気持ちを新たに頑張っています。その時はもちろん、ビールが付きものですが(笑)。

いずれにせよ学生時代になんでも話し合えるたくさんの友人を作っておくことをお勧めします。それが、社会人になってからも宝物になります。(もちろん社会人になってからの友人についても同じことが言えますが…)



あふれる元気 輝く笑顔

初の情報学部生を迎え 入学宣誓式



青空に満開の桜がまばゆく映える4月5日(月)、大学院・大学・短大の合同入学宣誓式が盛大に挙行された。

新設の情報学部を含む新入学生は総勢483名。学長や来賓の激励も受け、大学生活のスタートを切った。

恒例の「入学祝賀茶会」も華やかに催され、晴れの日を彩った。新入生が保護者と談笑しながらお茶を楽しむ微笑ましい光景も見られた。



オリエンテーション

一球ごとに深まる友情

4月9日(金)、工学部および情報学部は学科ごとに新入生オリエンテーションを開催した。いずれの学科も親睦を深めるため昼食をともにし、球技大会を行った。電気電子工、バイオ・リサイクル、情報デザインの各学科はボウリングに興じた。機械

工学科はソ

フトボールで汗を流し、情報工学科もソフトバレーを楽しんだ。初めの緊張もゲームを重ねることで徐々に取れ、チームワークもでき盛り上がった。新入生、上級生、そして教員がともに1つのボールを追い、1つのテーブルを囲む。参加者の心も1つになったようだ。



雨雲も吹き飛ばす? FFで「よさこい」披露

高城祭実行委員会

5月4日、我々広島国際学院大学高城祭実行委員会は、フラワーフェスティバルに「よさこい」で出演しました。当日の天気は曇り時々雨。天候にこそ恵まれませんでしたが、この日のために練習してきました。

出演は今年で2回目になります。フラワーフェスティバルの実施本部から去年、広島の大学生の元気な所を見せて欲しいという要請があったのです。広島地区大学祭連絡協議会に加盟している大学がこれに応じました。

僕達は、山陽女子短期大学大学祭実行委員会と合同チームで出演しました。今回フラワーフェスティバルに出演した中では唯一の合同チームです。あまり一緒に練習が出来なかったのですが、お互いの大学に行き、時間の限られた中、密度の濃い合同練習をしてきました。

当日はみんな緊張していたせいも、力を発揮出来てなかったかもしれません。雨が降り、ステージ上は滑りやすくなってしまったため、踊りながら転んだ人などもありました。けれどとても楽しかったです。最初は「よさこい」が全然踊れなかったのですが、練習して踊れるようになっていきました。頑張って練習して良かったなあと今は感じています。こんな体験が出来るのも、この大学に入り大学祭実行委員会に入ったからだと思っています。大学って楽しいし、大学生じゃないと出来ない、色々な体験が出来る所なのですよ。



学友会長から発信

喝!!



広島国際学院大学
学友会長 濱田大輔

私は大学生活を四年間過ごしてきて、大学生が年々幼稚化してきているように感じています。

大学とは、高校までに学んだ基礎知識を分野別に絞り、専門的に学び活用させる力を身につける場所です。そこで学生はその分野について深く知り、自己実現ができるようになり、社会に旅立っていけるのですが、実際の今の大学ではどうでしょうか。

この大学で多くの人を見てきましたが、私を感じたことは、自分の世界観をコンピュータゲームやグラフィックスなどに表現できる技術や機器をうまく活用する力を持つどころか、いまだにゲームやアニメやインターネットを中心に一喜一憂して、自己すらも持たない人が多いということです。

自己が確立されていないことで、物事を一方的に鵜呑みにする、つまり自ら考えることが困難となり、いろいろな視野から捉えることができなくなっている人が多くなっているようにも思います。場の雰囲気を読めない、コミュニケーションを図れないなど、児童期までのアニミズムが残っていることで、幼稚化が起きているのではないかと考えています。

私は、そんな人を少しでも減らす為にも、私を含め皆の大学生活がもっと楽しく、人生に於ける大切な一歩となるようにしたい。それには誰もが参加しやすいサークル活動や行事ができる、そんな環境を皆で築いていきたいと思うのです。

私は皆さんに、大学生活でいろいろなことをして有意義に過ごし、自己を発見し確立して、いいかげん大人になってくれるよう切に願っています。

私の大学生活

—— 何事も興味を持ってやれば楽しい! ——



情報工学科4年 田 渕 麻衣子

私が行っていた高校は総合学科で、自分の興味のある授業を選んで学ぶ事が出来ました。その中で一番興味を持ったのは、「コンピュータ」についてでした。情報処理やプログラミングなどを少しずつ学んでいく中で、コンピュータを使って一体何が出来るのだろう? 他にはどんな事が出来るのだろう? そう思って、大学は情報工学科に行く事に決めました。

大学の講義は思ったよりも難しく、ついていくのに必死で、理解出来ていない事もたくさんありました。ふとした時、毎日勉強してばかりで、自分は一体何をやりたいのか分からなくなりました。そんな中、高校の授業でホームページを作った事を思い出し、授業とは別にHTMLについて独学しました。私はイラストを描くのが好きなので、WEBサイトを作り、それを公開しようと思いました。その事がきっかけで、将来はWEBサイト制作や、何かをデザインする仕事が出来れば良いなと思い始めました。

そして今は、先輩に聞いた話から自分もやってみたいと思い、加わって立ち上がった組織「Kaleidos-coop」で、WEBサイト制作を中心に活動しています。卒業研究をしながら、組織で仕事をし、知識を身につける事が出来て毎日が充実しています。

何事も興味を持ってやれば楽しくなるし、とても大切だと思いました。社会人になってもこの事を忘れず、大学で学んだ事や組織での経験を生かして頑張りたいです。

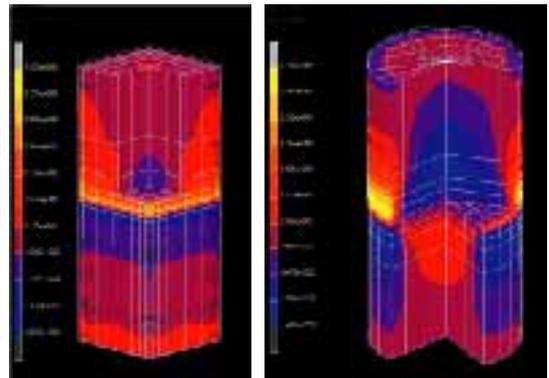


セラミックスと金属のより強力な接合には

セラミックスは、耐熱性、耐磨耗性、耐食性など金属材料には期待できない優れた特性を持っており、この特性を生かして機能材料、構造材料として広く利用されている。反面、加工性が劣り、機械的並びに熱的衝撃に対して極めて弱く、静的な強度は高いが、強度の信頼性が低い欠点がある。このためセラミックスを単独で使用するよりも、セラミックスの欠点を金属で補い、かつその特性を生かしたセラミックスと金属との複合材として使用される。

セラミックスと金属との複合材の一つに、両者を拡散接合した接合体がある。異種材の接合であるので、両者の物性差、特に膨張係数の差に起因する残留応力が接合体に発生し、この応力は接合強度を支配する重要な因子の一つであるのみならず、接合の可否に関わる因子でもある。

研究の共通テーマは「セラミックス／金属接合体に発生する残留応力の低減に関する研究」で、異種材の組み合わせ、両者の間に挿む中間材の種類とその厚さなど残留応力を小さくする接合方法、接合体に発生した残留応力を小さくする手法、例えば焼鈍、などなどについて実験と有限要素解析の両面で検討している。



接合体（四角柱および円柱）の残留応力の有限要素解析（上がセラミックス、下が金属）



工学部 機械工学科

さ さ き か ず の り
筈 木 一 憲 研究室



情報学部 情報デザイン学科

あ ら か わ の ぶ ひ ろ
荒 川 延 浩 研究室

アニメーションとコンピュータグラフィックス

本年4月から情報学部が新設され、情報デザイン学科がスタートした。新しい研究室を作り出さなくてはならない。卒業研究生とアニメーションに取り組んで6年目になる。無からのスタートで大変ではあったが、1年目に何とかソフトを使うことが出来た。作品も今から見れば未熟なものだが何とか出来た。その後も、色々な作品が出来たが、年々ソフトも開発され、160時間かけて作った一つのキャラクターの動作が次のソフトでは1時間で出来てしまうなど、嬉しいやら腹が立つやら複雑な心境だった。これまでに使っていたソフトはSHADE、LIGHTWAVE、DOGAなどである。本年より、アニメーションソフトとしてSOFTIMAGEを、同時に動作の解析と取り込みを容易にするためMOTIONBILDERも導入した。昨年は初めてCGコンテストに参加した。発表結果を見ればとても賞に入れる様なものではなかったが、学生もやっとレベルを理解したようだ。何事も挑戦してはじめて第一歩が踏み出せるのである。なお、情報デザイン学科の目指すところはWebのデザイン、ネットワークの構築、コンピュータグラフィック、アニメーションなどである。関連資格としては色彩検定・CG検定・画像処理検定・マルチメディア検定などがある。学生諸君には自分のレベルにあった資格を取得するとともに、そのレベルアップにも積極的に取り組んでほしい。何事も自信が



もてれば自分の成長につながるものである。

の 紹 介 ● ● ●

コルシカ地域文化と在日外国人の国際移動・社会構造

現在、私の研究テーマは対象別に2つある。1つはフランスのコルシカを対象とした地域文化研究である。ここ数年はコルシカの地域文化の中心的要素である言語がどのように創られ、変節し、今もEUの動向や知識人たちによって変化しているか、資料を基に分析してきた。コルシカは、イタリア諸国の支配下から18世紀末にフランスに征服されることによってその独自性を際立たせていくことになるのだが、低開発・クラニズムという独自の政治文化・1960年代以降のナショナリズムとテロリズムなど複数の要素が絡み合ってひとつの地域文化が編成されている。それらは「伝統的」地域文化が外部から「誤って」意味づけされながら、内部社会での機能と意味を変えてきたのではないかと最近では考えている。



コルシカの友人と



「ボンテ・ヌーヴォ」コルシカ独立戦の最後の場所
その後フランスに併合（1869）

もうひとつは、10年ほど前に参加した川崎市の外国人市民意識調査をきっかけに日本に住んでいる外国人を対象とした国際移動と社会構造に関する研究である。近年の経済的グローバル化と先進諸国の入国管理規制強化の中で、ジェンダーとエスニシティによる国際分業状態が作りだされている。社会的マイノリティがいかに社会的に創られ、社会的障壁によって「語ることができない」かを少しずつ明らかにできればと考えている。

いずれの研究にしても、自分の知っていること以上に知りえることはできない、という自己の知識量と質との格闘の日々であるのは同じである。



現代社会学部

さだ まつ あや
定 松 文 研究室



大学院生 現代社会学専攻

うち こし まさ ゆき
打 越 正 行



研究的視点とは何か

ここでは個人的な進路の悩みから生じた問いのひとつを紹介させていただくことにします。現在私はかすかに研究職につきたいなあという願望を抱きつつ、進路について悩んでいます。年齢は24才になり、多くの同級生は就職し再会するたびに説教されていますが、そのような状況から私は折衷案として、研究職につくとしても、他の職につくにしても、研究的視点を持ってその職業をまっとうすることは

は変わらないと考えることにしています。ゆえに、以下では研究的視点を持つとはどのようなものであるのかを少しながら書かせていただきます。

まず研究的視点とは、全く現場に同化してしまう視点でもないですし、その逆に自分に振り返ってこないような外部の高みからものをいう視点では決してありません。例えば、ある集団内の暴力をその集団の文化として認めるのか、それとも暴力を非難するのかのどちらでもないということです。そのような複雑な問題に直面する際、上のような特権の視点では何もできません。よって必然的に研究者は当事者にならざるをえません（※）。全くの素人である研究者が現場で対話し、感じる過程で当事者に近づき、そこからその問題そのものをより理解することや、言葉によって間接的に社会や現場に還元することができるかもしれません。よって、研究的視点とはある問題に対し、完全中立な雲の上から将来を先読みするのではなく、素人として関わり、言葉でもって後付けしていくことを重視する視点だと考えています。

※当事者になるとは、実践への想像力を持つということです。

特色ある大学教育支援プログラム

工学部長 いま 今 むら 村 あきら 詮



学習支援に役
「ホワイトボード画像取り込み装置」

プログラム開発の背景

平成15年度から文部科学省では、特色ある教育支援プログラムを発足させた。選別はかなり厳しいが国・公・私立を問わず大学側の関心は高く、本学も昨年度から応募している。申請した取り組み名称は「多様な学生への基礎科目学力向上方法の開発」である。数学教室が実施してきた学力向上のための取り組みは学生の満足度が極めて高い。これを専門基礎科目にも拡大しようとしたのが、今回申請したプログラムである。率直に言って採用される可能性はあまり高くはないが、応募を一つの契機に、より一層きめ細かい教育、学生の目線に合わせた親切的な教育が本学で実施されるよう期待する。

プログラムの具体的内容

申請の内容は、これまで本学で進めてきたきめ細かい教育を、総合教育センター新設を機として、統括的に進めようというプログラムである。具体的にはこれまで数学教室で行われてきた教育方法を基底にしようとしている。昨年度の申請時には、これまでのきめ細かい教育には一応の成果は認められるが、それを全学的に展開する点についての具体性に欠けると審査員から指摘された。昨年度は時間的余裕もないこともあり、全学的な検討がなされなかったため、今年度は工学部・情報学部の学部長・学科主任、総合教育センターの次長等で検討し、必要に応じて学長の意見も反映させながらプログラムを作成した。その結果、これまでの数学教室での教育方法と、情報工学科でこれまで集積されてきているe-Learningの方法・知識を結合させることになった。

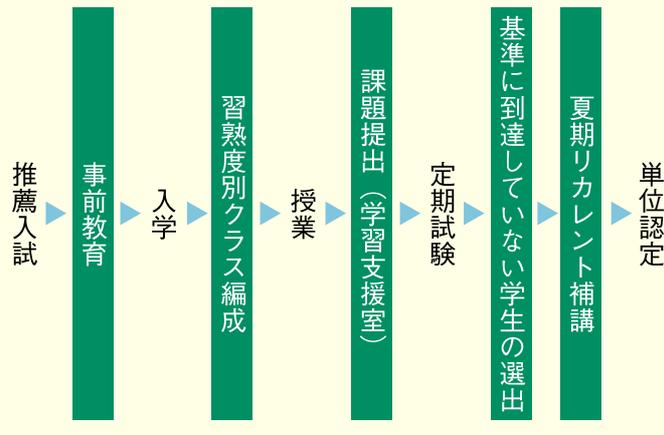
プログラムの全容を図に示す。

プログラムの成否は、まさに全学の教員・事務職員の協力にかかっている。是非とも成功し、本学が特色ある教育をする大学として生き残れるよう切望している。



意欲的に取り組む学生たち（学習支援室）

【数学教室の取り組み】



【全学的な取り組み】

